

平成25年緑化推進運動功労者
内閣総理大臣表彰受賞者・功績概要

[個人]

森山 衛 (茨城県日立市)
遠藤 節子 (静岡県三島市)
山口 寿美子 入江 真喜子 三好 美喜子 (徳島県美馬市)

[団体]

北海道札幌南高等学校 (北海道札幌市)
能代市中川原地区連合自治会 (秋田県能代市)
サンデン株式会社 赤城事業所 (群馬県前橋市)
千葉瑞穂みどりの少年団 (千葉県千葉市)
大鹿村さくらの会 (長野県下伊那郡大鹿村)
刈谷市立小垣江東小学校 (愛知県刈谷市)
花ネット丹後 (京都府京丹後市)
小豆島町 (香川県小豆郡小豆島町)
石鎚水源の森くらぶ (愛媛県西条市)
「耶馬の森林」育成協議会 (大分県中津市)

[個人]

もりやま まもる
森 山 衛

(昭和11年5月14日生 76歳)

住 所 茨城県日立市森山町3丁目15番1号

<功績の概要>

同氏は、市民参加の公園づくりで平成10年9月から「イトヨの里泉が森公園」事業に参画し、計画から完成まで一貫してワークショップを運営、指導に当たるとともに、整備段階においても生育植物の移植、ゲンジボタルの生態保全のための水辺植生整備等の公園工事協力活動を企画、実施し、完成後には公園里親団体を結成させて市民主導の維持管理に携わるなど、日立市で初のパートナーシップによる公園整備手法を確立した。

また、「イトヨの里泉が森公園」に引き続いて同市の「赤羽緑地」、「池の川弁天池公園化」事業でも、市民参加の公園づくりで植栽計画、ビオトープづくりに関する講習の指導、普及啓発活動を行って完成に導くなど、同市の公園緑地整備事業に大きな功績を残した。

その後、まちづくりアドバイザーとして潮来市、久慈郡^{いたこし}太子町^{だいごまち}等県内各市町村の緑化計画や市街地整備計画に参画して活躍し、現在は日立市の諮問機関「日立市緑化審議会委員」に就任し、緑の保全と緑化の推進に大きく貢献している。

[個人]

えんどう せつこ
遠藤 節子

(昭和4年11月22日生 83歳)

住 所 静岡県三島市東町1番5号

<功績の概要>

同氏は、平成元年から平成22年までの22年間、三島花の会会長として会員200余名の先頭に立ち、花いっぱい運動を推進した。この間、三島市内の公共花壇(3ヶ所)の植栽・管理のほか、市街地の街路の清掃など、地域の環境美化活動を積極的に行い、同市内の緑化及び環境美化の推進に大きく貢献した。

また、自身が緑化活動に参加するだけでなく、市内18地区の同会の地区役員など後任の指導・育成にも尽力した。会員向けに専門家を招いて花づくり講習会を開催し、個人の知識の向上だけでなく、地域の緑化リーダーとして活躍できるよう、人材育成に努めた。

このほか、静岡県花の会連合会の副会長在任中、県内で「NEW！！わかふじ国体」(平成15年)や「パシフィックフローラ2004しずおか国際園芸博覧会(浜名湖花博)」(平成16年)等の大型イベントが開催された際に、連合会の会員が会場周辺のプランター等の飾花育成や会場の花壇造成等に協力を行う体制の構築に尽力するとともに、各花の会の活動推進及び交流に貢献した。また、平成8年から11年間、静岡県緑化推進協会理事を務めるなど、県内全域の環境緑化活動の推進に多大な貢献をしており、同氏の役職を超えた精力的な活動は高く評価されている。

[個人]

やまぐち 山 口	す み こ 寿 美 子	(昭和18年8月9日生 69歳)
い り え 入 江	ま き こ 真 喜 子	(昭和21年6月7日生 66歳)
み よ し 三 好	み き こ 美 喜 子	(昭和23年6月15日生 64歳)

住 所 徳島県美馬市穴吹町三島字小島805番地の1
群馬県伊勢崎市東本町89番地の7
徳島県美馬市脇町拝原1378番地の1

<功績の概要>

姉妹である同三氏は、「花が咲く中で親を見送りたい」という気持ちで、過疎化した中山間地にある実家の畑に15年前からシバザクラを植え始め、継続的に花づくりに取り組んでいる。その美しい景観が口コミやインターネット等で評判となり、「広棚花の里」として県内外から見学者が訪れる観光名所となり、一般市民に花づくりのすばらしさを伝える機会を作り出している。

また、同三氏の活動をきっかけとして、地域住民も花の里づくりに参加するようになり、他の地区で生活している子どもたちも里帰りして、花の手入れを手伝うなど、花づくりを通じた農村の活性化にも一役買っている。

さらに、山口氏を中心とした婦人会グループが国道192号沿いに花を植栽するなど、ふるさとを花でいっぱいにしようという運動は、現在もさらに広がつつある。

[団 体]

ほっかいどうさっぽろみなみこうとうがっこう
北海道札幌南高等学校

所在地 北海道札幌市中央区南18条西6丁目1番1号

代表者 校長 富田 敏明

<功績の概要>

同校は、明治45年から植栽を行ってきたカラマツを主体とする121haに及ぶ広大な学校林を所有し、これを教育のフィールドとして最大限に活用しながら活発な活動を行っている。

同校では、数年前から、多層構造の森づくりや里山づくりなど多くの動植物が生存する森づくりを学校林の役割の一つとして位置づけ、林内に自生した広葉樹も育てながら学校林整備を行っている。

また、学校林は環境教育の場として貴重なものと考え、総合的な学習の時間において学校林を活用し、動植物の生態や食物連鎖を学ぶなど、教育としても大きな成果を上げている。

農林水産大臣賞受賞後は、オオムラサキの研究のために定時制生徒がエゾエノキを植栽したり、全日制科学部と有志の生徒が協力して学校林の環境調査を行うなど、学校林の活用の幅を広げている。

さらに、森林ボランティアや同窓会、大学とも連携するなど、活動を通じて地域の人々とのつながりも深めている。

同校の学校林は平成23年で100年の節目を迎え、学校林で行われるこれからの活動に対して大きな期待が寄せられている。

[団 体]

のしろしなかがわらちくれんごうじちかい
能代市中川原地区連合自治会

所在地 秋田県能代市中川原26番地487

代表者 会長 越中 武美

<功績の概要>

同会は、昭和47年の大洪水で破堤し、地区が多大な災害を被ったことを機に、「堤防は強く・人は住みよく・川は美しく」をスローガンに、昭和52年から地域住民によるクリーンアップ活動を行っている。

近年は、主な活動として、^{よねしろがわ}米代川のJR五能線米代川橋梁付近から約2kmの範囲において、年2回、大勢の地域住民が参加して清掃活動を行っている。

また、これまでに、自治会報「水とみどり」を作成・配布し、米代川の状況等の情報を提供するとともに、せせらぎ公園内の整備作業、コスモスロード整備、さくらづつみ整備など環境美化活動を実施し、堤防沿いには多くの人々が散策に訪れるようになっている。

同会の河川愛護意識の向上や河川環境美化の保全に対する積極的な取組により、中川原地区はモデル的な地域と評されている。

[団 体]

かぶしきがいしや あかぎじぎょうしょ
サンデン株式会社 赤城事業所

所在地 群馬県前橋市粕川町中之沢7番
代表者 代表取締役会長 牛久保 雅美

<功績の概要>

同事業所は、「環境と産業の矛盾なき共存」を基本コンセプトに掲げて整備され、「サンデンフォレスト」と称されている。敷地面積641,853㎡のうち、緑地は283,865㎡(44%)、緑地にビオトープ等を含めた面積は321,493㎡(50%)となっており、環境に資する施設が非常に広範に配置されている。

同事業所は、水際や林縁といった境界領域に植物や小動物の生育・生息環境を創造するため、民間工場では初めて宅盤の造成にコンクリートを使用せず、全て法面方式とする「近自然工法」により整備された。また、周辺環境との連続性を重視して外来種を使用せず、工場周辺に存在する樹種によって緑地を整備した結果、工場周辺と調和した樹林が形成されている。

同事業所では、絶滅危惧植物の保護・育成を行うとともに、環境モニタリング調査によって貴重生物等の種類数の推移を定量的に把握し、これまでの取組に対する検証を加えて、さらなる生物多様性の向上に取り組んでいる。また、同事業所が一市民として地域と連携・協働するため、「NPO法人・あかぎくらぶ」を設立し、環境保全、自然環境学習、自然環境体験の各活動を行っている。

さらに、群馬県の「長期社会体験研修」の受入先として同県の教員を毎年受け入れており、環境学習のフィールドワークの場としても活用されている。

[団 体]

おおしかむら かい
大鹿村さくらの会

所在地 長野県下伊那郡大鹿村大字鹿塩^{かしお}94番地
代表者 会長 菅沼 鑑二

<功績の概要>

同会は、昭和36年梅雨前線豪雨で多数の死者を出した「大鹿村3・6^{さぶろく}災害」の被災地において、犠牲者の供養と村の再建を願い、荒廃の激しいガラ地の整備にはじまり、永年にわたってサクラの植樹等に努め、苦心の末に、同地の緑化を実現させている。

同会では、草刈、害虫防除、清掃等の美化活動にも継続的に取り組み、同地は「大西公園」として、130種、3,000本のサクラが咲く長野県有数の名所となっている。現在では、開花時期を中心に、年間3万人以上が訪れるなど、村の活性化に大きな役割を果たしている。

同会の指導の下、地元中学生等が施肥等のサクラの管理も毎年行っており、若い世代に緑化思想の普及啓発をしつつ、郷土愛を育む機会づくりに貢献している。

さらに、同会は、村内の河川沿いや道路沿いへの植樹や自治会への苗木の配付など、大西公園以外での緑化活動にも取り組んでおり、緑化の推進に大きく貢献している。

[団 体]

かりやしりつ おがきえひがししょうがっこう
刈谷市立小垣江東小学校

所在地 愛知県刈谷市小垣江町白沢36番地

代表者 校長 近藤 圭介

<功績の概要>

同校は、愛知県刈谷市の最南部の田園地帯の中にあり、水田を埋め立てて造成されたため、校地に樹木は少なく、自然環境に恵まれた状態ではなかった。このため、平成8年に「ふるさとの森 東小里山」構想を立て、児童、PTA、地域が一体となって緑化活動に取り組んできた。

なかでも8,000本を超える樹木が育つ「ふるさとの森」は、同校が15年にわたって整備したものであり、子どもたちが放課後に探検や採集に出かけたり、休日には地域住民が散策に訪れるなど自然交流の場となっている。

また、植樹だけでなく、ポットやプランターで種から育てる「森源地」活動や、保護者と子どもと一緒にふるさとの森を散歩する「ふれあい散歩」等に取り組んでいる。こうした活動を積み重ねることで、子どもたちは緑化意識が高揚され自然の大切さや素晴らしさを学ぶとともに、年間を通したホタルの飼育や学区を流れる川や用水の調査など、地域の自然環境に目を向け、行動を起こすようになっている。

さらに、同校では、低学年は里山で自然とふれあい、中学年は生き物の飼育を通じて命の大切さを学び、高学年はお年寄りとの交流や地域の一員として保育や防災を学習する「命の学習」に取り組んでいる。その結果、緑を中心とした環境が、思いやりの心や命に対する畏敬の念を育てている。

[団 体]

はな たんご
花 ネット 丹 後

所 在 地 京都府京丹後市丹後町久僧

代 表 者 会長 吉 井 久子

< 功績の概要 >

同会は、平成4年から京都府京丹後市丹後町の国道178号沿線において、四季折々の花づくり活動を行っており、此代地区このしろにおいて5,000本の苗を育成、植栽している。

平成17年の組織化を機に、女性ばかりであった会員に男性も加わることによって活動の幅が拡大し、また、会員でない地区住民も沿道の所有地に積極的に植栽や花壇の草刈をするなど「おもてなしの心」が広がり、地域の活性化につながっている。

近年は高齢化の影響で退会者が多いことから、東京や大阪など全国から若者を中心としたボランティアの人々を受け入れ、植栽だけでなく海の清掃や稲刈りなど多岐にわたって活動し、都市住民とも交流を深めている。

このほか、植栽の知識に乏しいボランティアの人々に花の育て方を学習する機会を提供するなど、同会は「おもてなしの心」の普及に努めている。

[団 体]

しょうどしまちょう
小豆島町

所在地 香川県小豆郡小豆島町池田2100番地4

代表者 町長 塩田 幸雄

<功績の概要>

同町は、過疎化や高齢化が急激に進む中、「日本のオリーブ栽培発祥の地」という地域の資源を活かし、国内生産量の約9割以上を占めるオリーブのブランド力をより一層確かなものとするため、平成10年からオリーブ苗木の公費助成、平成13年から国・県の助成制度を活用した荒廃地・遊休地の再整備やオリーブ栽培者に対する栽培管理指導を推進してきた。また、町内で7校の小・中・高等学校に学校園を設け、約750本のオリーブを植えて育てる等、オリーブによる地域振興にも取り組んできた。

同町の取組により、オリーブの栽培面積は、平成18年の34haから平成23年3月末には約88haに増えるなど、町をあげてオリーブを中心とした緑化活動が行われている。

また、同町が事務局を運営する団体を通して、公共施設への花苗の配布や植栽を通年実施し、緑化思想の普及啓発に尽力するとともに、住民参加による除草作業を定期的に行い、町民運動として緑化活動を推進している。

[団 体]

いし づち すいげん もり
石 鎚 水 源 の 森 くら ぶ

所 在 地 愛媛県西条市荒川2号176 上野清七宅内

代 表 者 代表 上野 清七

< 功績の概要 >

同団体は、平成10年に設立され、手入れが行き届いていない人工林を貯水能力の高い水源林へと整備することを目指し、森林ボランティア活動を行っている。

同団体は、四国中央市、新居浜市、西条市に各支部を置き、各支部単独又は合同により、活動拠点の森林や森林公園等で間伐や植栽、下刈などの森林整備活動を行っている。これまでに平均で月1回以上の活動実績があり、平成23年には12回、面積約6ha、延べ人数約450名が参加してボランティア活動を行った。活動に家族連れで参加したり、地元の企業も参加するなど、活動が広がりつつある。

また、同団体は、山村地域の祭りや交流イベントなどにも積極的に参加し、山村住民と都市住民との交流も進めている。

同団体の活動により、森林の整備だけではなく、山村や林業にも理解が深まるとともに、森林づくりへの参加気運の醸成が図られている。また、地元森林所有者やその後継者等に対しても山林管理の意識啓発に繋がっており、森林の整備・保全活動への理解と関心が高まるとともに、上・下流が一体となった森林保全活動の推進、山村地域の活性化に大きく貢献している。

[団 体]

「^や ^ば ^も ^り ^い ^く ^せ ^い ^き ^ょ ^う ^ぎ ^か ^い」
「耶馬の森林」育成協議会

所 在 地 大分県中津市豊田町14番地3

代 表 者 会長（中津市長）新貝 正勝

＜功績の概要＞

同会は、耶馬溪ダム・耶馬溪導水事業の完成により、福岡県北九州市・日豊本線沿線の市町へ安定的に送水されることとなった平成11年に、上・下流域をつないでいる水と森林の大切さを認識し、「「流域はひとつ」運命共同体意識を高めよう！」を合言葉に、大分県と福岡県の境を越えて交流を行うため設立された。

同会は、山国川流域の自然がもたらす豊かな水の恩恵を受ける関係市町等で組織されており、流域住民等が県境を越えて一体となり、耶馬溪ダム周辺での広葉樹の植樹活動や育樹活動を行っている。

同会の活動は15年目となり、毎年、耶馬溪ダム湖畔で講演会や広葉樹の植樹等を行い、関係市町等から多くの人々が参加している。

第14回「耶馬の森林」植樹の集いは、平成23年11月12日に開催され、関係市町から564人が参加して広葉樹（モミジ350本・ヤマザクラ150本）の植栽を行った。これまでの14年間の植栽は1.75ha・4,300本を超え、県の垣根にとられない上・下流域住民による「水源の森林」づくりは着実に進んでいる。